

文化資源を活用した 観光インバウンドのための環境整備

日本全国には観光資源となる
文化財、文化芸術が
あふれている

課題

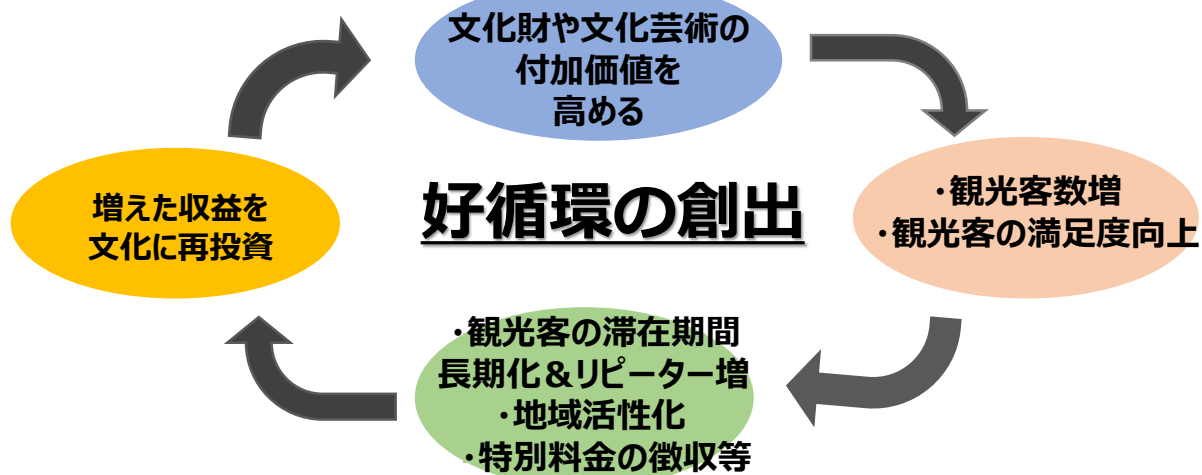
- ・日本を訪れたいと思うきっかけ不足
 - ・訪日外国人の目線でのサービス不足
 - ・もう一度「訪れたい」、「体験したい」
- 次回は別の時期に、別の場所で
「訪れたい」、「体験したい」の不足

(1) 先端技術を使って日本文化を国内外へ**発信**

(2) 訪日外国人目線に立って、

分かりやすく・おもしろく伝える

(3) **磨き上げ**た文化資源で**体感**できる演出



“文化”を最大限活用して、好循環を創出し、観光立国の実現を目指す

①日本博を契機とした観光コンテンツの拡充

日本博の開催を契機として、これまでにない演出・手法等で文化財を活用したインバウンド向けの観光コンテンツを全国各地で創出し、訪日外国人の地方誘客・消費拡大を促進

能『羽衣』

狂言『萩大名』

歌舞伎『連獅子』

※国宝・重文の文化財を多言語で集中展示
(画像提供: 独立行政法人国立文化財機構)

重文『遮光器土偶』 縄文時代

国宝『太刀 三条宗近 (名物三日月宗近)』 平安時代

国宝『花下遊樂図屏風 狩野長信』 江戸時代前期

縄文期の美術展示から現代舞台までを、
分野を超えてストーリーでつなぐ

※各種実演のダイジェスト版を多言語で公演

③文化財多言語解説整備

修理と看板整備を連携して進める

訪日外国人旅行者の地域での体験滞在の満足度を向上させるため、文化財に対して多言語で先進的・高次元(VR、AR技術、QRコードなど)な解説整備を加速。



(AR技術を使用した多言語解説)



(音声ガイドの多言語解説)

②Living History (生きた歴史体感プログラム)

文化財に新たな付加価値を付与し、より魅力的なものとするための取組(Living History)を支援するとともに、地域全体で魅力向上につながる一体的な整備などを実施。

(第3代将軍徳川家光による後水尾天皇への饗応を再現)

(乙巳の変のきっかけとなる蹴鞠を再現: 飛鳥)

(古民家から旅館へ)

(文化財美装化前)

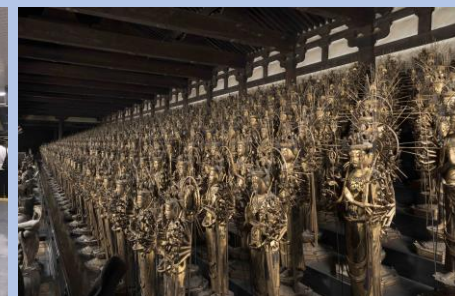
(文化財美装化後)

④日本文化の魅力発信

日本の歴史や芸術・伝統的な日本文化・文化財等を先端技術等(VR、AR等高精細画像やクローン文化財等の高精細レプリカ等)も駆使しながら、効果的な場所(空港・駅等)で国内外に発信



(成田空港に洛中洛外図屏風を再現)



(VRにより1030体の仏像群を再現)

参 考 资 料

①日本博を契機とした観光コンテンツの拡充

概要

- 『日本の美』総合プロジェクト懇談会(主催:安倍総理、座長:津川雅彦氏)において、安倍総理から文化庁に対し、オリパラ東京大会を契機として、全国各地で「日本の美」を体現する「日本博」を開催することについて指示。文化庁を中心に、関係府省庁や文化施設、地方自治体、民間団体等の関係者の総力を結集した史上初の大型国家プロジェクトを展開する。
- 被災地をはじめ各地域が誇る歴史、文化財、伝統芸能、景観、食、祭等の文化資源を活用しつつ、複数機関が連携した展示・公演・体験型ワークショップ等を全国各地で実施することを通じて、観光コンテンツを創生し、ネットワークを形成するとともに、訪日外国人の「地方への誘客」を促進し、オリパラ前、期間中及びオリパラ後のインバウンドを拡充

取組の方向性



各地域において好循環を創出



② Living History (生きた歴史体感プログラム)

概要

文化財に新たな付加価値を付与し、より魅力的なものとするための取組(Living History)を支援することなどにより、文化財の活用による地域活性化の好循環を創出する。また、訪日外国人観光客が多く見込まれる日本遺産や世界文化遺産などにおいて、地域全体で魅力向上につながる一体的な整備や公開活用のためのコンテンツの作成等を行うことで、観光拠点としての更なる磨き上げを図る。

取組の方向性

- ① 文化財建造物や史跡等の文化財に新たな付加価値を付与し、より魅力的なものとするための取組「Living History (生きた歴史体感プログラム)」を促進するとともに、特別料金の徴収等の仕組みを構築



(千姫の生活体験)



(梅花の宴再現)



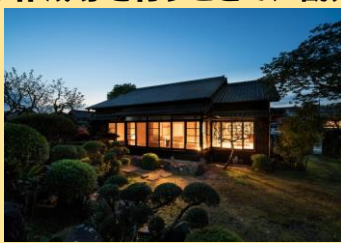
(絵図に基づいた大名行列)

- ② LH実施地域や日本遺産等の外国人観光客が見込まれる地域で、魅力向上につながる一体的な整備や公開活用のためのコンテンツの作成等を行うことで、観光拠点としての磨き上げを実施



観光拠点の磨き上げ

(スロープ設置等のバリアフリー整備)



(伝統的な家屋の宿泊施設への転用)



文化財の美装化

(彩色の剥離・剥落した部分の補筆や、漆塗部分の漆がけ)

③文化財多言語解説整備

概要

訪日外国人旅行者の地域での体験滞在の満足度を向上させるため、文化財に対して多言語で先進的・高次元な言語解説を整備する事業を、観光施策と連携させつつ実施。

取組の方向性

文化財中核観光拠点200か所を中心として、先進的・費用対効果の高い多言語解説を整備。



(AR技術を使用した多言語解説)



(音声ガイドの多言語解説)



(H Pの多言語解説)

文化財活用・理解促進戦略プログラム2020 (抄)
(平成28年4月 文化庁策定)

2020年までの目標

- 文化財単体ではなく地域の文化財を一体とした面的整備や分かりやすい多言語解説の整備などの取組を1000事業程度実施するとともに、日本遺産をはじめ、文化財を中核とする観光拠点を全国200拠点程度整備

方針

- 修理中の文化財と本事業を連携、候補地域とする。
- 世界文化遺産18地域を含め、インバウンドが多い文化財を候補地域とする。



整備を加速化



④ 日本文化の魅力発信

概要

訪日外国人旅行者への旅前の情報発信の充実、地域での体験滞在の満足度向上や再訪へ結びつけるため、**先端技術等も駆使しながら**、日本の歴史・芸術・伝統的な文化財や風景などの発信を**観光施策と連携させつつ**実施。

取組の方向性

旅行前の情報収集段階、訪日観光客が必ず利用する空港等などの**主要観光インフラ**、必ず訪れる**主要な観光地**などにおいて、文化財を始めとする日本固有の文化資源を**先端技術等も駆使しながら効果的に発信**し、消費の拡大と体験滞在の満足度向上を図るとともに、再訪へと結びつける。加えて、日本文化の多様な魅力・コンテンツに関する情報入手を容易にする取り組みも実施。

旅行前

(訪日前の情報収集等)

渡航前の日本文化発信

渡航前の外国人観光客等に向けた観光情報発信のプラットフォームを提供する。



日本観光の玄関口

空港等における日本文化発信

到着直後より地域固有の文化資源の魅力強いインパクトを与える演出で展示することで、主要観光地へ誘導する。



▼(参考)「富嶽三十六景神奈川沖浪裏」(葛飾北斎)の高精細グラフィックシートを空港天井に装飾

主要観光地

文化財所有者が行う日本文化の魅力発信

社寺や自治体等が有識者の知見も活用しつつ、所有する文化財を、民間企業の先端技術を駆使して今までにない新たな公開・活用を行うことで、体験滞在の満足度の向上や観光消費の拡大につなげる。

▶(参考) 国宝「風神雷神図屏風」(俵谷宗達筆)のMR技術を駆使したミュージアムを開催



▶(参考) 国宝「三十三間堂」で国宝「木造千手観音立像」のVR映像体験

日本観光の玄関口

空港等における日本文化発信

出発直前まで楽しめる空間を演出し、日本滞在に対する良い印象を定着させ、再訪の動機づけとする。



▼(参考) 国宝「火焰土器」の高精細レプリカを手に触れて体験

旅行後

(帰国後の情報発信)

帰国後の情報発信・リピート促進

帰国後の外国人観光客が旅行中の感想等を投稿するサイトを構築し、更なる外国人観光客の増加を図る。

